

平成 29 年度 第 7 回 北区自治協議会 議事概要

日 時 平成 29 年 10 月 19 日（木）午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分

会 場 豊栄地区公民館 2 階 大講堂

出席者 委員

倉島会長、松田副会長、赤間委員、阿部(康)委員、五十嵐(隆)委員、
本間(藤)委員、山賀委員、若月委員、渡邊委員、渡邊委員、阿部(淳)委員、
五十嵐(紀)委員、上松委員、後藤委員、小林委員、曾我委員、高橋委員、
村中委員、阿部(美)委員、梅津委員、岡委員、本間(久)委員、若尾委員、
阿部(恵)委員

計 24 人

(欠席：内川委員、川居委員、川島委員、工藤委員、高口委員、真壁委員)

事務局

〔北区役所関係〕

副区長兼地域課長、区民生活課長、健康福祉課長、産業振興課長、
建設課長、総務課長、北出張所長、北区農業委員会事務局長、
消防局北消防署長、北区教育支援センター所長、豊栄地区公民館長、
地域課長補佐、地域課課員 3 人

傍聴者 2 人

内 容

1 開会

2 会長あいさつ（略）

3 報告事項

(1) 地域ごとの人口動向を踏まえた意見交換について

副区長兼地域課長

報告資料 1—1 でございます。1 の趣旨でございますが、昨年度、中学校区ごとに健康度につままして見える化を行ったところでございます。これまでも区の将来人口などを推計いたしましてお示ししてきたところではございますが、本年度は、中学校区ごとに将来人口を推計いたしまして地域カルテとして取りまとめ、見える化したものがこの

資料でございます。

北区では、12月17日に予定されている地域の人口動向をテーマとした地域ミーティングにおきまして、地域の皆さまと意見交換をより深めてもらうために、事前にこの資料の地域カルテを配付させていただきました。

本市の人口は、2005年の81万人余でピークを迎えまして、その後減少し、2040年には66万8,000人余まで減少するという推計がされております。人口減少、少子化、高齢化の進み具合は、地域によって当然異なってまいります。地域カルテを皆さまと共有いたしまして、市はもちろんでございますけれども、皆さまにおかれても、今後の地域活動などを行っていく際の資料の一つとしてご活用いただきたいと思いますと思っております。

2の地域カルテの項目（案）というものでございますが、地域カルテは、人口の現状と将来の姿といったデータだけでございますけれども、今後、健康度といったデータも追加いたしまして、バージョンアップしていく予定でございます。

3の当面のスケジュールといたしましては、今後、コミュニティ協議会の役員の皆さまにも12月開催の地域ミーティングの前にご説明したいと思っておりますが、具体的な日程、方法につきましては、今後ご相談させていただきたいと存じます。地域ミーティングにおいては、地域の皆様が利用できる補助メニューや、メニューを活用した事例等についてもご説明させていただき、地域の人口動向をテーマに意見交換をさせていただく予定でございます。

裏面をご覧いただきたいのですが、参考といたしまして、市報の10月1日号に掲載されました「ひこうき雲」をお配りしております。これは市長の思い、考えが述べられておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

次に、報告資料1—2をご覧いただきたいのですが、これはB中学校区の地域カルテと題してはありますが、実はこれは松浜中学校区の地域カルテでございます。松浜中学校区も含めまして、北区の8中学校区のカルテにつきましては報告資料1—3に記載されてございます。

それでは資料1—2でございますが、1ページ目、1番上になりますが、人口、世帯数、住民基本台帳の数字でございますけれども、2011年と2016年の人口、世帯数につきまして、性別や、0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口、65歳以上の老年人口の三つに区分いたしまして、これを比較したものでございます。この表の一番左の欄、総数、増減とある赤字の部分でございますが、5年前と比較し、総数が609人、5.1パーセント減少しております。年齢の三つの区分でも、0歳から14歳の年少人口はマイナス213人、15歳から64歳の生産年齢人口においてもマイナス

832 人となっておりますが、一方で 65 歳以上の高齢者、老年人口は逆に 436 人増加しております。このうち、75 歳以上が 243 人を占めているということでもあります。また、世帯数につきましても、37 世帯増加しておりますけれども、1 世帯あたりの人数は 0.15 人減っているという状況でございます。

2 の人口推計であります。2011 年から 2016 年の増減率がそのまま推移するとどうなるかということ推計いたしまして、20 年後の 2036 年まで 5 年ごとですけれども、地域人口がこの 20 年間でどのように変化するかを表しております。表の一番下の赤字の部分ですけれども、2016 年と比較すると 2036 年には人口が 3,176 人減少いたしまして、割合として 27.8 パーセント減少するという予測でございます。0 歳から 14 歳の人口も 525 人減少、割合では 40.8 パーセントの減となっております。ほかの年齢区分においても減少と予想されております。表の一番下ですが、四角で囲んでいる欄に人口動向のポイント、コメントを示しております。

それから 2 ページですが、これは人口推計グラフということで、左上の青い吹き出しの内容になります。このグラフは 2011 年と 2016 年を比較いたしまして、5 歳刻みですけれども、どの年齢階層が増減しているのかを把握するためのものがございます。例えば、右上の吹き出しになりますが、A さんが属する 2016 年の 5 歳から 9 歳の年齢階層の人数が 90 人、5 年前の 2011 年に A さんが 0 歳から 4 歳だった年齢階層の人数が 100 人、これを比較した場合、その増減率は 10 パーセント減少しているということになります。これがコーホート変化率といわれるもので、この割合を、例というのは 0.0 を基準にいたしまして、5 歳刻みの階層においてどのくらいの割合で増になっているのか、あるいは減になっているのかを示したものでございます。青色の棒が男性、茶色の棒が女性であります。

若い人の死亡率はごく低いことから、増減率はそのまま地域からの転入、あるいは転出した人数と考えていただいても構わないと思われま。年齢が右側の方へ 80 歳、90 歳、100 歳となると、減少率が急に大きくなって棒グラフが下のほうに伸びておりますけれども、これはほぼ亡くなられる方であると思われま。グラフの下の四角で囲んである欄に、増減率のポイントが示されております。

一番下の棒グラフですが、まず左側の棒グラフ 2 の年齢、3 区別人口の推移ということでございます。3 つの区分の人口がどのように変化するかを示したものでございます。総人口が右肩下がりで減少していくという様子と、中でも、真ん中の茶色の部分、これが 15 歳から 64 歳の人口、これがどんどん減少していくことが分かります。

そして今度は右側です。3 の年齢、3 区分人口の割合の推移ということで、年齢区分

別の割合がどのように変化するかを表したものでございます。全体といたしまして、人口は先ほど見たように右肩下がり減少していくのですけれども、その割合ですが、緑の 65 歳以上の人の割合はどんどん増加する一方で、ほかの年齢区分はどんどん減少しているということを表しております。

3 ページです。左側の一番上になりますが、4 の高齢者人口の推移ということでございます。高齢者の総数について、65 歳から 74 歳までを濃い緑色、75 歳以上を薄い緑色で表したものであります。そして、折れ線グラフは、茶色が 75 歳以上、青が 65 歳から 74 歳までの割合を示しております。2021 年には、茶色の 75 歳以上の人口が、65 歳から 74 歳の人口を逆転するというを示しております。

それから右側のほうに移りまして 5 の年少人口の推移ということであります。0 歳から 14 歳の人口とその割合がどのように推移するかということグラフ化したもので、どんどん右肩下がり減少し続けるということが表れています。

最後に人口ピラミッドですが、6 の 2011 年から右下の 2036 年までの 5 歳刻みで男女別の人口構成をグラフ化したものでございます。それぞれのグラフは、縦軸、横軸の目盛りが全部同じになっておりますので、2011 年ではでっぷりとした体格のよかった人が、2036 年には人口減少が進んでかなりやせ細った形になるということでありまして。しかも、この 2036 年では逆ピラミッド型、つまり子どもや若者が少なく高齢者が多いという構造になっていくということを表しています。

先ほど申しましたが、このタイトルは B 中学校区となっておりますが、これは松浜中学校区のものでございます。そのほかの中学校区につきましても報告資料 1—3 で表しております。のちほどご覧いただきたいと思っております。

最後になりますけれども、はじめにご説明させていただきましたが、この地域カルテを事前に配布いたしまして、12 月 17 日に開催予定の地域ミーティングにおいて、地域の人口動向をテーマに市長が皆さんと意見交換をさせていただきます。この地域ミーティング等のご意見を踏まえまして、今後、適宜、自治協議会の皆さまへの情報提供や意見交換を行いながら、さらに進めていきたいと思っております。

倉島会長

ありがとうございました。これについて皆さまからご質問がありましたらお受けしたいと思っております。ございませんか。

若尾委員

人口減少はもう避けられないのですけれども、このカルテを基に地域が自ら考えていく中で、コーホートはいいのしょうけれども、情報をさらにご提供いただきたい。自然減か社会減かということ年代別に教えてもらいたいと思っています。当然、高齢者は自然減が多くなるのしょうけれども、社会減がどのように動いているのか。私の周りもそうなのしょうけれども、区と区間の移動についてです。北区から中央区に行っている人が多いという話しも聞きますし、区の中での移動がどうなっているかとか、そういう情報、人の動き、特に社会的な要因で動く人の動き、それを知りたいと思います。そういったものがもし資料としてあれば、今後提供いただければと思います。

副区長兼地域課長

今の資料ではそういった自然減と社会減の動態の資料は表していないところではありますけれども、先ほど少し申しましたけれども、若い世代において亡くなる方というのはごく少ないのではないかと考えております。自然減で亡くなる方でありまして、そうした方につきましては高齢者が多いということで、2 ページの一番上の表、これが資料ですが、コーホート変化割合ということで示しているものでございます。

政策調整課長

今ほどご質問にございました自然減、社会減の部分でございますけれども、住民基本台帳を基にしてこちらのデータを作っておりますが、各中学校区別の自然減、社会減というところは、中々データとして整理が難しいところもございます。

例えば区ごとの中での自然減、社会減というような形ですとか、どのような形であれば今委員がおっしゃった部分がお出しできるかどうかということについては、少し預からせていただいて、検討させていただければと考えております。

若尾委員

高齢者の場合ですと、私の周りの方は、やはり医療体制とか福祉とか介護とか、そういう身近な切実な問題をよりよく解決したいために、やむなくだと思っておりますけれども、北区を離れて中央区に行くという方が多いのです。そうした場合に、では北区として何をしなければいけないかということ考えたときに、パーソントリップと申しますか、人が動いていく状況の理由をよく把握したうえで施策を検討する必要があると思っています。

そういった観点からも、私たち自身の問題として、そういった情報が広く提供していただけるとありがたいと思います。これは要望ですが、お願いします。

山賀委員

非常にこういったデータはいろいろなことが分かってすばらしい記録だなと思っているのですが、初めてなので、まずお聞きしたいのは、今回は北区の中学校区単位の分析をしております。多分、人口がこれから伸びるとか伸びないとか、そういった施策に使うとすれば、そういったものに影響するものは、そこに職場があるとか交通の状況はいいとか、いろいろな状況の中で、あまり中学校区単位で議論してもそういった問題が浮き彫りにつながるのかなという疑問があるのですが。もう少し簡単に言いますと、こういった議論をするには、例えば新潟市の場合でしたらもちろん中学校区もいいのですけれども、地域ミーティングに向けて、よその区と北区はどうなっているのか、より人口の施策に役立つような分割方法があってもいいのかと思います。その辺と、あえて中学校区に分割を出していることと、例えですけれども北区とか、ほかの方法と違いますか報告はないのかなということで、急に見たのでまとまらない質問ですが、よろしくお願いします。

副区長兼地域課長

区ごとの、8区ごとの比較表ということでございますか。

そうしたデータは出すことは可能でございます。可能ですが、今回は健康カルテ、健康度のデータを中学校区で示している関係もございしますが、それと重ねるような形で、この人口についてのカルテと一緒に、人口と健康カルテが見える形でそういうものを作っていこうということでございます。

山賀委員

くどいですがけれども、できれば先ほど言ったように、いろいろなところと比較することによっていろいろな議論ができるかと、その辺も、今日は別としましてご検討いただければと思います。よろしくお願いします。

副区長兼地域課長

8区を比較したデータを示してもらいたいということでございますか。区ごとで。

山賀委員

そのほかに分割できるような方法があれば。

副区長

そういったデータを出すことは可能です。

山賀委員

地域ミーティングやいろいろな施策を考えたり、検討するときに、一番そういったものを検討しやすいようなデータをお示しいただくなり、ご検討いただければいいのかなということでございます。

副区長兼地域課長

分かりました。地域ミーティングにおいて8区を比較した表を出せるのかどうか、少し検討させていただきたいと思います。

倉島会長

よろしいですか。ほかに何かございましたら。ございませんか。
では次に移ります。

(2) 平成 28 年度北区「特色ある区づくり事業」実績等について

倉島会長

(2)平成 28 年度北区「特色ある区づくり事業」実績等について、報告をお願いいたします。

総務課長

報告資料 2 の平成 28 年度特色ある区づくり予算実績報告一覧をご覧ください。平成 28 年度に行いました区づくり事業のそれぞれ所管課ごとに分けられている資料でございます。地域課におきましては、「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」ほか 4 事業を実施しました。区民生活課におきましては「十二瀬ブラッシュアップ支援事業」ほか 1 事業、健康福祉課におきましては「地域子育て応援事業」ほか 1 事業、産業振興課では「海岸林利活用推進事業」ほか 3 事業ということであります。

ここまでの区企画事業という形で、区で企画しながらいろいろ事業を実施した件で

ざいまして、予算トータルが2,400万円ということでございます。平成28年度の決算額を記載しておりますが、ここまでの合計額で2,148万1,513円ということで、89.5パーセントの執行率となりました。

それから、その下の自治協議会の提案事業、これは「北区夏休み子ども公共施設利用体験事業」ほか2事業でございまして、予算額が500万円ということで、決算額は3事業合わせまして488万7,916円ということで、執行率は97.8パーセントという結果になりました。

なお、このそれぞれの事業の内容、課題と成果等を含めまして、担当の所属長からこれから説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

副区長兼地域課長

まず、報告資料2の1ページであります、「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」ということで、これは小中学校を対象に、新潟医療福祉大学の学生をボランティアでスタディサポーターとして延べ851人を派遣し、学習支援やスポーツ支援などを行うことによりまして、学習環境等のバックアップと将来を担う人材育成に努めたところであります。子どもたちにとっては、年齢が近い大学生から様々なことを教えてもらい、将来、自分もあんな大学生になりたいとの意見や、大学生からも、教育実習の場となっているとの意見があり、大変好評でありました。

2ページの「新崎駅賑わい創出事業」であります。駅連絡通路や駅周辺の活用を地域と共に検討いたしまして、駅前案内看板、周辺の植栽整備のほか、駅利用促進について地元のコミュニティ協議会にアンケート調査を委託することによりまして、自らの地域の課題を考えていただくと共に、市としても地域要望の把握に努めたところであります。

3ページの「北区総合スポーツ事業」であります。様々な競技による総合スポーツ大会を開催いたしまして、併せて、気軽にスポーツを楽しめる体験会を実施することによって、様々なスポーツを楽しむきっかけづくりを行いました。

4ページになりますが、「地域再発見事業」であります。郷土芸能の団体が発表する機会を増やしました。また、博物館の常設展示の説明をする市民ガイドを養成するとともに、その説明用の学習ノートを作成するなど、郷土の歴史、民俗の再発見となるように努めました。

5ページの「わくわく「感」劇 子どもの感性はぐくみ事業」であります。区内の全小学校、主に5年生を対象に、北区文化会館のホールで本物の舞台での質の高い演劇を鑑賞してもらいました。また、ワークショップといたしまして、代表児童が舞台の上で

舞台の仕組みについて実演しながら学びました。参加した児童の95パーセントからとても面白かった、あるいは面白かったという声がありまして、引率者からも生き生きと躍動する役者の方々を間近に見ることができて感動したなどの評価がありました。

地域課所管分は以上です。

区民生活課長

6ページをご覧ください。はじめに「十二潟ブラッシュアップ支援事業」です。こちらは、岡方地区にあります十二潟を地域の宝として位置付けまして、地域への愛着心、それから環境保全、それらを継続していこうという活動でございます。これらを支援するために平成27年から平成29年度までの3か年事業として行っておりまして、平成28年度では潟舟のこぎ手の育成とか、潟の観察施設のデッキですがこちらの延長設置、それから保全状況の調査ということで岡方第一小学校、岡方地区コミュニティ委員会の共催によりまして観察会を行い、また、岡方中学校と合同水質調査などを行っております。また、外来植物駆除体験会ということも行いまして、地域一体となって十二潟を守っていこうということで活動を行いました。

続きまして7ページでございます。「うるおいの水辺ねっとわーく事業」です。これは平成26年から平成28年までの3か年間行っております。これは、北区内にあります8つの水辺を保全している団体をネットワーク化しまして、情報交換や活動の支援をしていこう、また活性化をしていこうということで行っております。事業としては、ネットワークの運営という中では会員を対象としました研修会の開催、併せて講演会の開催。それから情報発信の部分では会員活動マップの作成とかフェイスブック、それから「キテ・ミテ・キタク」や北区環境まつりでの展示、活動状況の展示、そういったものを行いました。また、自主事業としましては、それぞれの活動を一般の方々からも知っていただくということで、マップを活用したスタンプラリーを行いました。あとは活動支援のための器材の購入を行いました。

健康福祉課長

8ページをご覧いただきたいと思います。健康福祉課所管分について説明させていただきます。

まず1つ目の事業でございますが、「地域子育て応援事業」ということで、平成26年度から3か年で取り組ませていただきました。この地域子育て応援事業では、出産するまで乳幼児に関わる経験が少なく、核家族化で子育ての経験者が身近におらず基本的

な育児の知識が不足している母親の孤立化や誤った育児知識は児童の虐待にもつながり、子どもの成長にも悪影響をおよぼす場合があります。また、北区内の各関係機関や団体等はそれぞれの立場で子育て支援に取り組んでおりますが、連携して事業を行うことは困難であり、また、この重複している事業の解消も中々難しい現状にありました。

このような現状の中で、北区では、地域の子育て支援として平成 23 年度から地域、民間、行政の子育て支援に関わる関係機関や団体等により構成する子育て応援ネットワーク会議で、情報交換ですとか意見交換、学習会などを実施して、連携して子育て支援に取り組むネットワークを強化してきました。その後、平成 27 年度からは、子育て応援会議に引き継ぎまして、より地域の中で支え合いについて検討してまいりました。

また、子育て世代向けの支援講座としましては、パパ向け子育て支援事業「完璧な親なんていない」、これは NP プログラムといたします。あとは「どならない子育て練習法講座」など、計 3 クール開催いたしました。また、保育士など支援者向けに 1 講座、これは傾聴スキル習得講座といたしますが、こちらを開催いたしました。子育てに関する悩みを持つ保護者に接する機会が多い保育士の傾聴スキルの向上につなげました。また、さらに、冬場に子どもたちと親が思いきり遊べるイベント「北区ふゆっこまつり」を開催して、子どもの健全育成を図りました。また、子育て情報冊子、こちらも 3,500 部発行いたしまして、子育てに関する情報を分かりやすく発信いたしました。なお、「北区ふゆっこまつり」のほうは、約 2,300 名、子育て応援講座は延べ 153 名の方々からご参加いただきました。

昨年度のこの子育て応援会議の中では、支援が必要な家庭が、支援につながる施策はあるのですが、一般の子育て世帯と地域社会との接点がほとんどない中で、地域で子育て家庭を支え合って子育て支援していける体制づくりを進めるために、地域の方と子育て世帯との出会いの場が必要との意見が出されておりました。これを受けまして、地域の中で相談や支援関係を真ん中に置かないフラットな出会いにより、顔の見える関係を築くことが望ましいということから、今年度なのですが、子育て応援カフェということで、この 4 月から、地域の方々が建設して立ち上げました早通健康福祉会館で、9 月からモデル的に開催をしております。子育て世帯と地域の方々が、気兼ねなくフラットな関係の中で子どもを連れてお茶を飲みに来ていただいております。地域の方々と顔見知りになっていただき、自然な交流の中から効果的な子育ての支え合いにつながることを目的として、今年度実施しております。

次に、9 ページをご覧くださいと思います。「在宅医療推進事業」でございます。こちらにつきましても平成 26 年度から 3 か年ということで、平成 28 年度は 3 年目とい

うことをございました。在宅医療推進事業では、区内の診療所の医師や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネージャーなどの専門職からなる北区在宅医療推進協議会を3回開催いたしまして、区内の開業医と連携を図るための方策の検討や、平成27年度に作成いたしました「北区在宅医療ガイド」の改訂版について協議しました。ガイドについては、北区内で在宅医療等を実施している医療機関へ市民向け冊子への掲載についての意向調査を行い、地域医療推進課で作成しております「よくわかる在宅医療&介護」の冊子の巻末に、27医療機関と22の薬局の一覧表を掲載いたしまして、こちらを3,500部作成いたしました。北区内の公共施設や医療機関、薬局への配布や、在宅医療市民出前講座で配布するなど、在宅医療の啓発を図りました。

今後の課題といたしましては、在宅医療を実施する診療所同士の連携の強化ですとか、診療所と介護サービス事業所との連携強化、一番重要なのは、患者さんの急変時における病院の受入体制への働きかけや、地域の皆さまに対しての在宅医療に関する情報提供のあり方などが上げられますが、これらの課題に関しましては、区内の医療機関や関係事業所が参加してできております「ござれやネット」というものがありますが、こちらで引き続き協議しながら連携を図っていきます。また、平成28年度に豊栄病院に在宅医療・介護連携ステーション北が開設したことから、同ステーションと協働しながら地域の医療機関、福祉関係事業所との連携をサポートしていこうと今年度考えているところでございます。

産業振興課長

4つの事業をやっております。10ページをご覧ください。

「海岸林利活用推進事業」になります。この事業につきましては、平成28年度から平成30年度までの3か年事業で取り組んでいるものです。海辺の森につきましては、飛砂防備保安林、それから保健保安林ということで、二つの指定を受けているところでございます。この事業によって、これらの機能を維持して、憩いの場を提供していただいております市民活動の支援を目的としております。平成28年度は、保全活動の団体ならびにボランティアの方々による草刈りや樹木の伐採などの保全活動を実施しまして、海辺の森の美観維持や森林資源の利活用を推進することができました。資料にあるとおり、緑を守る活動などのボランティア活動や、子どもたちと巣箱づくりとかネイチャーゲームなどのイベントで、延べ354名の皆さんから海辺の森にかかわっていただくことができました。

続いて11ページをご覧ください。「商店街若者協働プロジェクト」になります。平成

28年度単独事業ではございますが、北区における商業の衰退、人口減少などに伴うまちの活力低下を防ぐために、豊栄駅前商店街と松浜地区で、それぞれ若者の視点と活力を取り入れて、魅力ある商店街のあり方を模索したものでございます。平成28年度につきましては花火女子事業の取り組み、今年度平成29年度は似顔絵を商店街に展示する企画など、こういったものにつながっております。北区の中心市街地の活性化、賑わい創出を目指す取り組み、活動となったと思っております。

簡単ですが、次に12ページをご覧ください。「キテ・ミテ・キタク魅力発信プロジェクト」でございます。こちらも平成28年度から平成30年度までの3か年事業です。区内の農商工業が一同に介し、魅力を発信するイベント「キテ・ミテ・キタク」を開催したほか、交流人口拡大を目的としてホームページなどを用いた市内外への広報、区内の観光資源の魅力向上を図りました。「キテ・ミテ・キタク」につきましては、当日の天候に恵まれなかったこともありまして、来場者数は1万5,000人ということで前年度比1,000人の減少ということになりました。また、民間旅行会社と連携したバスツアーにつきましては、近隣市町村へのPRチラシの配布などを行い、ツアーを5回実施しております。市内外から240名の参加がございまして、好評を得ているところでございます。

最後に、「「稼げる農業」促進事業」になりますが、こちらも3か年事業で取り組んでいるものです。農産物の高付加価値や加工品の開発などをつうじて、農業者の所得向上につなげていく取り組みです。北区で農協などと連携して特産化を進めておりますシルクスweetという品種のサツマイモの生産振興を今中心的に進めております。このシルクスweetにつきましては、平成28年度、公募によって選定されました「しるきーも」という名称を付けさせていただいて、地域特産物のブランド化を推進しております。記載にはありませんが、この取り組みによりまして、「しるきーも」の作付面積は平成27年度の1.3ヘクタールから4.0ヘクタールに増加しております。また、JAへの出荷額、個別で売っている方もいるのですけれども数字として私どもが押さえられるのはJAの出荷額ということで、平成28年度は約1,000万の出荷額が出ていると聞いております。

副区長兼地域課長

自治協議会提案事業について、ご説明いたします。

14ページをお開き願います。「北区夏休み子ども公共施設利用体験事業」ということでございます。区内の子どもたち、ルートは松浜あるいは新崎からビュー福島潟まででございますが、夏休み期間中に区内の公共施設をつなぐ無料バスを運行し、公共施設の利用を通じて北区の新しい魅力発見につなげたところであります。

15 ページの「「命」の教育」です。自分を大切に、他人を思いやることができる環境づくりの契機となるよう、北区文化会館におきまして「子どもの人間力を伸ばす～その具体的な方法とは？～」と題しまして講演会を開催いたしました。

3 つ目になりますが、16 ページです。「地域防災力向上事業（海辺の森等津波避難対策）」であります。地域の方々からワークショップに参加していただきまして、津波浸水想定区域周辺の集客施設を抱える海辺の森におきまして、利用者が速やかに避難するにはどうしたらいいのかということを検討したうえで、避難誘導看板を設置するなど、防災意識の向上に役立てたところでございます。

倉島会長

何か質問がございましたらお受けしたいと思います。

ございませんか。

ないようですので、次に進めさせていただきます。

(3) 北区区ビジョンまちづくり計画 第 1 次実施計画の実績(平成 28 年度分)について

倉島会長

(3) 北区区ビジョンまちづくり計画第 1 次実施計画の実績、平成 28 年度分について報告をお願いいたします。

副区長兼地域課長

北区区ビジョンまちづくり計画第 1 次実施計画の実績についてということでございます。報告資料 3 であります。北区の区ビジョンまちづくり計画、これは平成 27 年度から平成 34 年後までの 8 年間の計画であります。今年 5 月の自治協議会におきまして、その概要版のパンフレット、冊子を配布させていただいたところでございます。その際に、併せまして平成 29 年度と平成 30 年度、これが第 2 次実施計画になりますけれども、これも併せて配布させていただきました。今回は第 1 次ということで、第 1 次実施計画、平成 27 年度と平成 28 年度の進捗状況のご報告でございます。

平成 27 年度分につきましては、昨年の自治協議会で報告させていただいております。1 枚ページをめくっていただきますと、1 ページ目になりますが、1 の「豊かな自然と共生するまち」ということで、この表に事業番号がございまして、1 番からずっといきますと 17 ページの 116 番までありますが、116 の事業が掲載されております。事業名、目標、平成 27 年度の評価、平成 27 年度の実績、これが昨年の自治協議会で平成 27 年

度分についてはご報告させていただいたものであります。

今回がその右側のほうになります。平成 28 年度の評価、表紙に戻っていただくと、A、B、C、D ということで、A が計画を上回る実績があったということで件数が 6 件、B が計画どおりに実施できた 99 件、C が計画を達成できなかった 11 件、D 未着手ということで 0 件、合わせて、平成 28 年度においては 116 件の事業を行ったところであります。その評価が、また 1 枚めくっていただきますと平成 28 年度評価ということで、それぞれ A、B、C、D というような形で評価がなされております。そして、平成 28 年度にどのようなことをやったのかということで実績が記載されております。

参考までといたしまして、平成 29 年度、今年度になります。どのような事業をやるのかということの概要を記載させていただきました。最後に、一番右側のほうに各担当課を入れさせていただいているものでございます。

これが 17 ページ 116 事業ということで、それぞれの評価をしたところでございます。一つ一つの事業につきましては記載のとおりでございます。

倉島会長

ありがとうございました。ただいま説明のありました第 1 次実施計画の実績についてでございますが、何か質問がございましたらお受けしたいと思います。

ございませんか。

赤間委員

資料と直接関係ないのですけれども、このようにやってきたものに対して、すべての面において結果的に効果は上がっていると思います。こんな安い金額で、事業は大変ですけれども、北区としては相当な結果が出ているのではないかなと。おそらくこの効果が 5 年先、10 年先にいって、また 3 倍、4 倍の結果が出てくるだろうと私は信じております。ぜひともこういうものをあきらめずに、なお一層強化していただけることを望みます。

と言いますのは、先ほど人口減のお話しがございましたが、あれは今のままであればの話であって、何かを努力して、これだけの結果が出るのであれば、20 年後には、2036 年のころには人口が増えているかもしれない。やはりそういう希望を持った予算の組み替えをぜひ皆さんで努力していただければ大変ありがたいなど。私も、そういうことであれば、役員をやっているうちならば一生懸命、何倍にもなって応援したいと考えています。以上でございますが、よろしく願います。

倉島会長

副区長兼地域課長、何か一言。

副区長兼地域課長

今現在におきましても、様々な減少対策ということは事業として行っているところではあります。先ほど、ご説明、人口減少ということで報告させていただきましたが、市だけが事業を進めればいいということではなくて、地域の皆さまと一緒に協働してこの人口減少問題という大きな問題に向かって立ち向かっていきたいと存じます。赤間委員からは大きな激励ということでいただきました。今後とも一生懸命各事業を実施して、まちづくり、人口減少対策、こういったものに取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。

倉島会長

赤間委員、よろしいですか。

赤間委員

はい。

松田委員

一つお尋ねしたいと思うのですが、資料の2ページ目、11番に「福島ウィンターフェスタ開催事業」というのが出ておりましたが、一番下です。お尋ねしたかったのは、全体の成果として、Aランクにあがったのが6事業と出ている中のこれは一つだと思うのですが、目標としては1,000名の集客に対して実際やったら3,000人という実績で、3倍の集客があったと。これだけこの事業に対して関心を持った人が大勢いた事業であったと理解できるのですが、おそらくこれは単年度事業としてやったこととしてこれで終わったのかと思うのですが、福島潟ウィンターフェスタ、いうなればこの地区の新しい発見をさせる事業と思ったときに、これだけ参加者が多い中で、今後こうした状況を見ながら、こういう事業を見直したり、やってみようというようなご意図があるのかどうなのかと思って見ていたのですが、いかがなものでしょうか。

副区長兼地域課長

この福島潟ウィンターフェスタ開催事業につきましては、平成 25 年度から平成 27 年度の 3 か年の区づくり事業として市民参加型のイベント開催ということで行ったものでございます。区づくり事業ということで、3 年間で一通り区切りをつけたということでございますので、またこうした事業を行ったほうがいいのではないかとということであれば、また区づくり事業等で形を変え、あるいはもっといい方法はないのか検討したうえで皆さまと検討させていただきたいと思っております。

倉島会長

それでは、ほかに質問がございましたらお受けしたいと思います。

ないようですので、次に移らせていただきます。

(4)平成 30 年度北区「特色ある区づくり事業の提案状況について

倉島会長

(4)平成 30 年度北区特色ある区づくり事業の提案状況について、報告をお願いいたします。

総務課長

報告資料 4 をお開きください。平成 30 年度北区特色ある区づくり事業の提案状況ということで、中間報告をさせていただきます。

現在のところ、ご覧のとおり事業ということで区のほうで今考えている状況でございますが、表に金額が入っておりません。これは今調整中ということで、要は、2,400 万円の枠の中でいかに効率よく効果的な事業を進めていくかということで、担当課で様々な検討を今いただいているという状況でございます。また、もう一つ、自治協議会の提案事業はまだお示ししておりません。これにつきましては、今日も各部会で検討を予定されていると考えております。その検討を十分重ねていただいて、内容を精査していただきながら、11 月、次の自治協議会でまた状況を報告させていただくという形を取りたいと思います。最終的に 12 月にすべて金額を入れた形で、北区の区づくり事業としてまとめるという予定にしております。よろしくお願いたします。

少し内容を確認していきたいと思いますが、区企画事業ということで、まず地域課の担当でございますが、1 番の「北区賑わい創出事業」ということであります。これにつきましては、継続 3 年目ということで、内容につきましては先ほども説明しましたが、北区全体の発展、賑わいの創出を図るためということで、まちづくりに向けた広報資料

を作成するほか、新崎駅の拠点化に向けた地域住民による協議会等の活動を支援するとともに、駅連絡通路や駅周辺の活用をともに考えていくという事業でございます。

それから2番は、「大学生と地域の協働による人・地域・学校づくり支援事業」。これにおきましても継続3年目という形になります。北区内の小中学校等と新潟医療福祉大学、地域行政が連携して、児童、生徒の学習環境等のバックアップと将来を担う人材の育成の支援を行うとともに、協働に関する意識の向上や人づくりを支援していきますという内容でございます。

それから3番、「公共施設利用促進バス事業」。これは2年目ということで継続でございます。夏休み期間中の子どもたちを中心に、北区内の公共施設等の利用促進を図るため、無料バスを運行するという内容でございます。

それから4番、「郷土芸能伝承支援事業」ということで、これも継続2年目ということになりますが、北区に伝わる神楽などを地域の人に知ってもらうための発表の場の提供と、後継者として期待される子どもたちへの伝承に向けた取り組みを支援していきますという内容です。

それから5番、「北区総合スポーツ事業」ということで、新規ということで提案をさせていただいている状況ですが、気軽にスポーツを楽しめる区民参加型のイベントを実施するほか、各種体験会や各種競技別大会を開催することで、区民の一体感を高めるとともに、区民の積極的な参加を促し、健康増進を図っていくという内容でございます。

次に健康福祉課でございますが、6番の「地域子育て支援事業」。子育て仲間づくりなど、地域で子育てを支える体制構築を推進し、不登校、引きこもりや児童虐待の予防につなげるなど、児童の健全育成を推進していくということで、継続2年目でございます。

7番、「認知症予防（もの忘れ検診）事業」ということで、これも継続2年目でございますが、認知機能の低下が疑われる人を早期に発見して、適切な支援、サービスにつなげるため、北区の65歳以上の希望者に対して国保の特定健康診査、後期高齢者健康診査の受診の際にもの忘れ検診を実施するという内容でございます。

それから8番、「介護予防のための専門職派遣事業」、これは新規でございます。これは高齢者の日中の居場所やコミュニティセンター、リハビリテーション等に関する専門知識、知見を有する方を派遣いたしまして、介護予防に関する健康講座を開催していくという内容でございます。

それから、次に産業振興課所管のものでございますが、9番、これは「海岸林利活用推進事業」ということで、継続3年目でございます。先ほども説明がありましたが、北

区海岸林保全計画に基づきまして整備する海岸林について、地元住民による保全活動を支援する、それから住民と協働しながら、これまでできなかった森林空間の利活用を推進していくというものでございます。

それから10番、「キテ・ミテ・キタク魅力発信プロジェクト」ということで、これも継続3年目でございます。これは交流人口拡大のため、市外、県外在住者に向けた広報を実施するほか、観光資源を整備して魅力を向上させ、新規観光客の開拓とリピーターの増加を狙います。また、より効果的な魅力発信を行えるよう、区民が北区の魅力を共有し、一体感をもって取り組める基盤を創出していきますということです。

それから11番、「地域商業魅力創生プロジェクト」ということで、継続2年目でございますが、地域商業活性化のため設定したテーマを用い、商品、コンテンツ開発やPR開発を行って、各個店等において使用することで新規顧客獲得とエリア全体の一体感をもったイメージアップを図り、継続した賑わいを創出するというところでございます。

それから12番、「次世代農業」推進事業、これは新規事業でございます。農産物のブランド化を通じた稼げる農業の仕組みづくりに、農作業の省力化を可能とするICT等の新技術導入という視点を加え、次世代農業への取り組みを支援していくというところでございます。

次は総務課の13番でございます。「地域防災力向上事業」ということで、昨年までは自治協議会提案事業のほうで下越羽越水害の防災シンポジウム、これを上げておりましたが、来年度平成30年度は、地域防災力向上事業ということで区企画事業のほうに提案させていただきたいと考えております。地域防災力向上のため地域の防災リーダーを持続的に育成し、技能向上に努めて、その活動が行いやすいよう防災装備品の充実を図っていく、それから区民の防災意識の向上を図るため防災イベントを開催していくということで、継続的な事業にもっていきたいと考えております。

以上、13事業、現在までの提案状況についてご報告させていただきました。

倉島会長

ありがとうございました。何かご質問がありましたらお受けしたいと思いますが。

後藤委員

気軽にスポーツを楽しめる区民参加型のイベントを実施するというので、以前にも言ったと思うのですが、本当に小さい子から高齢者まで楽しめるフロアカーリングというスポーツがあるのです。これは本当の軽スポーツで、少しすると事前の体操などをし

なくてもできるのではないかというくらいの軽スポーツですが、先回も10月7日に北地区スポーツセンターで行いまして、昨年よりも2倍から3倍のグループが参加しまして、北地区スポーツセンターの、前年度は多目的ホールだったのですが、今年度は体育館一杯を使いましてにぎやかに行われたのですが、そういうもろもろをしていただくことはすごく皆さんに広まるしいいことなのですけれども、このフロアカーリングは、各地区でやろうとすると、道具がすごく高級なものでして、12名でやろうとすると20万円、二十数万円かかる道具が必要なのです。ということは、ほんの1グループでやろうとしても、中々この道具をそろえることは大変なことなのです。

それで、ぜひ高齢者から子どもたちまで広めようとする、こういう北地区スポーツセンターとか公民館とかという、近くに住んでいる人はいいのですけれども、私たちのように南浜とかいろいろなところの末端のほうに住んでいる人は、中々こちらのほうに出て来ることができません。そうしたら、近くに連絡所という場所があるので、そういうところに区のほうでそろえていただいて、そこから、やっている皆さんに期間を設けて貸出をするような、そういうことも考えていただきたいと思うのです。イベントとかをやるだけではなくて、そういう広めるようなことを、道具を貸し出してやれるような、そういうことをしていただきたいと思います。

副区長兼地域課長

フロアカーリングですが、平成28年度からやりまして今年で2回目になるわけですが、対戦しますので二組で30万円以上くらいするというものでありまして、この北区の総合スポーツ事業ということでフロアカーリングをやるときに少し足りないものから、ほかの区から借用してきて対応しているというような実態がございます。

今ほど、フロアカーリングは大変いいスポーツなのだと、気軽にできるスポーツなのだというお話を改めてお聞きしましたので、予算の関係もありますけれども、もっと購入できて、気軽に利用していただけることが何とかできないかということで、少し検討させていただきたいと思います。

後藤委員

私たちも、南浜地区でやっている者なのです。それで、小学校の子どもたちの夏休みの、外に出られない子どもたちと一緒に今年は4日間やりました。または、今度は中学校の文化祭に中学生と一緒にやろうという案も出ています。今日もある施設のところからぜひ仲間に入れてくれないかということで13名の人に来て、やっているところを私

は抜け出してきたのですけれども、そういうことで、今、最高年齢が75歳、70歳代が半分くらいいて、60歳代以上の方が半分くらい、今日特別仲間に入った人以外は総数15名くらいの方がいつもやっているのです。その人たちは、いろいろそういうフロアカーリングとかを機会に地域に飛び出していつているのです。運動会があれば行こう、ここで中学校のいろいろな催しがある、ではそこも行ってみようということで、家庭に戻ればご主人なり連れ合いさんを介護している人、それからいろいろな、自分の年寄りを介護している人、それから自分がけがをして病気を持っているという人たちがいろいろなことで参加して、そこですごく生きがいを持って参加して、いいスポーツなのです。楽しいスポーツなのです。自然と声を発して、わきあいあい、童心に帰ってキャーとかわーとかという声が常に飛び交っているのです。

それはすごく、これから長い目で見たら、認知予防もなるし、高齢者の引きこもりにもなります。そうすればうつとかいろいろな病気も解消できます。そうしたら、健康福祉課のほうのいろいろなお金の節約にもなると思うのです。それで、本当にその道具そのものが高価なので、補助金なりでもいいですし、こういう方向にこういったらこういうお金が出ますよという案でもいいです。私たちは3年間かけていろいろなところを回ったのですけれども、やはり高いからねということで補助金なりもらえていないのです。

ですから、皆さんに経験してもらうことはとても大事なことですけれども、その後、ではやりたいという人たちが出たときに、それから、それを継続して何とか方法を考えてやっている人たちのために、いろいろなことの手助け、そういう道具を買う、購入する手助けでもいいですので、していただきたいと思います。

倉島会長

区から何かコメントはないですか。

副区長兼地域課長

今ほど補助金がないのかというようなお話もございました。少しその辺、補助金があてられるのかどうか、帰って調べてみたり検討してみないと分からないところもございますので、あとで個別にご相談いただければと思います。

後藤委員

予算を付けてあげようかという案があったのです。でも、こちらのほうにご相談したら、これは予算から出せないということがあるのです。おかしいねといった話をしてい

るのです。

副区長兼地域課長

高額な、30万円以上するような物ですので備品購入という形になりますが、その辺で何らかの手立てがないのかどうか、少し検討させていただきたいと思います。

倉島会長

自治協議会のこの会というよりも、むしろ個別案件というか、そういう形でお話しして進められたほうがいいのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

あとほかに何かご質問がございましたら。

ございませんか。

では次に移ります。

(5) 部会の会議概要について

倉島会長

(5) 部会の会議概要について、各部会長よりご報告をお願いいたします。

本間（久）委員

報告資料5の1ページ目でございます。今回は部会で協議するテーマについて何点か協議をしまして、まだ最終的な結論には至っていないのですけれども、現状分析ですとかその辺を含めて、最終的な結論はもう少し詳しい話をして、今回と来月で決めておきたいと思います。

それから、平成30年度北区特色ある区づくり事業ということで、委員提案のほうですが、現状で「Northern Music Festival」の話が阿部淳一委員からありましたので、この辺についてももう少し具体的に詰めていきたいと思っております。

それから、松浜海岸の環境整備と地域活性化は、今年度の自治協議会提案事業のことで、先週ですか、植樹を実施しましたが、今回、その報告があります。

倉島会長

ありがとうございました。続きまして福祉教育部会長、お願いいたします。

渡邊委員

福祉教育部会の概要につきまして、ご報告させていただきます。

お手元に概要が配られているのでございますけれども、主なものを少しかいつまんで申し上げますが、真壁委員よりの提案事項につきましては、平成30年度北区特色ある区づくり事業について、大学生と商店街の活性化事業ということでございまして、いろいろと委員の皆さんから意見をいただきました。この件につきましてはここに書かれているとおりでございます。

次にもう一つ、五十嵐紀子委員より、「区民の一体感醸成プロジェクトーみんなの区役所づくりー」という提案がございました。これにつきましても、総務課長からも出席いただきましていろいろとご指導をいただいたところでございます。主な委員の意見につきましては、ここに書かれているとおりでございます。

次に、自治協議会提案事業でございしますが、「命の教育」につきましては、今、皆さんのお手元にこういうプリントしたものがございしますが、少しお目通しいただければと思います。今、大変、幼児教育といいましょうか、そういうことは大切でございしますので、こういうものを子どもさんのいる各家庭に届けたいということが、すごく委員の中から多く意見が出まして、こういうものをこれから何回か出したいということで、先般の総務部会の中でも少しお話しをして了解をいただきました。今日は午前中、梅津副部長と地域課の小林課長補佐から校長会へ出席していただきまして、学校をとおしてお配りしたいという旨のお願いをしたところでございますが、ご了解を得たということもお伝えしておきたいと思っております。

あと、一番下のほうにあります早通健康福祉会館、大変すばらしい活動をなさっていると、ぜひ視察したいという意見がございまして、それにつきましても近々計画をしてみたいということで話し合いが行われました。

倉島会長

ありがとうございました。続きまして自然文化部会、お願いいたします。

若尾委員

自然文化部会の報告をいたします。6ページになります。

昨年度になりますけれども、この自治協議会において福島潟のラムサール条約登録に向けた要請書というものを全会でお認めいただいて、山崎前会長、倉島副会長から市長あてに提出していただいたところです。その後、実際に登録に向けた取り組みといいますのは、市の本庁にあります環境政策課というところが環境省と調整しながら進めてい

きますし、地元の合意形成という面では、地域課の皆さまが主となって動いていただくという形で進んできていたのですけれども、その後の経過について改めてお聞きしたいという要望が委員のほうからもありまして、関係課の職員の皆さまにお集まりいただいて意見交換をさせていただきました。

その中で、ラムサール条約の登録にはいろいろな要件がありまして、例えば国内法で貴重な動植物が保護されることが法律で担保されることが大事だとか、あるいは地元の合意がちゃんと得られていること、そういった要件がいろいろあるのですけれども、福島潟がラムサール条約に登録されるために乗り越えなければいけない大きな、唯一、一つの壁が地元の合意形成ということでございます。

この問題は、十数年前にもこういった登録に向けた動きがありまして、そのときと状況は何も変わってはいなかったというような結果になるのですけれども、市の取り組みやその結果についてご報告をいただいたということでございます。

ラムサール条約の登録は随時受け付けてはいるということなのですけれども、日本政府としますと、3年に1回行われますラムサールの国際会議というのがありまして、それが次回2018年ドバイというところで行われるのですが、そこに向けて登録を頑張ろうという腹づもりでいたのですけれども、それについてはスケジュール的に間に合わない。地元の合意ということですので、人の気持ちの問題が一番大きいものですから、これについては間に合いませんということになりました。その点については、我々委員も、これまで頑張ってきた中で落胆の程度は非常に大きいということになるのですけれども、ここであきらめることがないように、引き続き機運の醸成を図っていくということで、淡々と言いますか、細々と言いますか、この火が消えないようにしていきたいと思っています。

特にこの自治協議会といいますのは、市民と行政の協働の要ということで、区全体の問題ですとか、ある意味利害関係がある問題については、こういう自治協議会の立場でものごとを進めていくことは非常にいいと私も思っておりましたが、委員も任期がありますし、職員の皆さんも異動等で異動していかれますので、いずれこういった問題が薄れていくといいますか、忘れられていかなないようにしなければいけないということは強く申し上げたいと思います。

今年度は、委員の中からも、例えば葛塚の人は福島潟のことは知っていても松浜地区の人はあまり実態をよく知らないというような話もあったものですから、まず「自治会長に感謝の集い」といういい機会があるということですので、こういう機会を使いまして、新潟市の潟環境研究所の大熊孝先生に潟の価値のようなお話をさせていただくとい

う企画させていただいて、これは11月末に実施する方向で今調整させていただいているところですよ。

それから、我々自身も、北区の水辺の良さというものを理解しようということで、昨日の11日火曜日、バスを借用して、晴天の下、楽しく回ってきたというところがございます。

来年の事業については、これから部会のほうで議論をしてご報告したいと思います。

倉島会長

ただいま3部会長より今までの経過報告ということでありましたが、何かご質問がありましたら受けたいと思いますが。

山賀委員

市の方にお聞きしたいのですが、今の福島潟のラムサール条約の件ですが、自治協議会から登録に対して要望が出たということは承知しているのですが、市の立場として、先ほどの地元合意が得られるならば、やられたのちに申請をするというような方向づけなのかどうかということが一点です。

もう一つは、そこに書いてある地元合意というものは、どういった形になると合意が得られたということになるのか。具体的によく分らないのですが、地元合意の形です。という二点でございます。

副区長兼地域課長

地元合意につきましては、特に反対される方が相当数いらっしゃるという状況においてはまだ合意に達していないと考えられますので、そういう場合はいまだ合意には達していないということでございます。具体的に、では反対者が一人でもいれば地元合意にはならないということではないかと思っておりますけれども、地元の理解がやはり不可欠だろうということでございます。大方の皆さんがラムサール条約について賛成だということであれば、地元合意というものが成された、成されるのであろうと思っておりますけれども、かなり大きな反対がまだ一部ある現状においては、いまだ合意に達していないというふうに考えています。

そして、市としましては、そうした地元合意が成されれば速やかに、所管のほうは本庁の環境政策課になりますが、ラムサール条約登録に向けて必要な手続きを進めていくことになろうかと思っております。

山賀委員

ということは、今まで関係するような団体であるとか組織とか、あるいは地元の地域であるとか、いろいろなところで説明会をしたところ、まだまだ反対意見が相当多かったということなのでしょうか。

副区長兼地域課長

福島潟にもっとも近いところの自治会で、昨年3回ほど説明会を行いました。その中でも、かなり反対という声が説明会の中では多数ありましたので、そういう状況でございます。

倉島会長

私のほうから、一委員の立場でよろしいでしょうか。

反対理由というのはどういう内容か、ここではお話しできませんか。

地域課長補佐

反対の理由としましては、ラムサール条約に登録するということによって、地元の人が今まで割と自由に潟の中に入ったりして漁をしたり、今も継続してやっているわけですが、そういったことができなくなるのではないかというような恐れがあるということで反対だというような意見が多かったかと思います。

倉島会長

それは、実際にやはり制約があるのですか。赤塚にある佐潟などは何か獲っているようですね。要らないような質問ですけれども、何か少し納得ができないというか。

地域課長補佐

実際には、そういった制約はかかりません。ラムサール条約というのが、ワイズユースという考え方で自然と共生しながらその自然を守っていく、人間の手を加えながらその環境を守っていくというような考え方を取っております。実際に漁に入っても特に問題はないのですけれども、中には、外から来た人が、ここはラムサール条約に入って自然を守る場所なのになぜそうやって漁に入っているのかというようなことで、外から来た人に今までも言われていると、登録することによってなおさらそういう声が多くなる

のではないかというような懸念を抱いているという、今はそういう状況です。

倉島会長

説明をよくしてあげれば、だいたい納得できるような内容ですよね。そもいかないのでしょうか。

分かりました。次に移ります。何かあと、ほかにご質問がございましたら。ございませんか。

4 その他

倉島会長

では、次に移らせていただきます。3番目、その他です。平成29年度第3回新潟市区自治協議会会長会議についてです。実は私が本来行くべきでしたけれども、先ほど本間部会長から説明がありましたとおり、松浜海岸にグミの木を1,300本という数を植える事業がございまして、小学校の生徒を動員したり地元の住民を動員したりして、そちらのほうに行っていたために行けなかったものですから、渡邊部会長にお願いしたということでございますので、渡邊部会長から内容をご報告お願いしたいと思いますが、よろしくお願ひいたします。

渡邊委員

倉島会長の代理で、10月13日、秋葉区の文化会館に行つてまいりました。

自治協議会のあり方検討についてという議題1本なのですが、すごく雄弁な各区の会長さん方でございまして、メモが取れないくらいたくさんお話しがございまして勉強になりました。いくつかメモしたのですが、昨日の新潟日報に出ておりましたので、これを読んでみますと私のメモとほとんど同じだなと思って、三つ、四つ、紹介させていただきますが、よろしくお願ひいたしたいと思ひます。

10年も経っているのだけれども、自治協議会というのはどうなのだろう、認知度がどうなのだろうという意見がたくさん出ました。そういうものをいくつかメモした中では、市議会との関係についてもいろいろな意見が出てまいりまして、当初は傍聴に何人か来ていたけれども最近はあまり来なくなつたと。やはり市会議員の皆さんと意見を共有する、地域の問題を共有するということが大切なのではないかというような意見も出てまいりました。

それから、会長会議で私のような代理が意見を述べるのは失礼かと思つたのですが、

認知度の関係をよく考えてみますと、お互いの役割分担ということがどうもあやふやなのかなと、皆さんの意見を聞いたりしながら少し感じました。私は常々考えていたのが、自治会でやれるもの、そして各地区のコミュニティ協議会の中で議論をして検討してやれるもの、そこでも中々やれないもの、この北区全体の中で、みんなで議論してそして行政へ提案するものと、こういうようなことである程度分けていって、それが実際に住民の皆さんの要望に応えられるというようなことになれば、おのずと自治協議会の認知度が高まっていくのかなと、こういう考えを少しだけ述べさせていただきました。

本当にいろいろな意見が出ておりましたけれども、その意見を、今月 30 日に開催されます第 2 回新潟市区自治協議会のあり方検討会の中に反映させていきたいという事務局のお話しがございましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。詳しいものにつきましては、昨日の新潟日報を見ていただきますと本当によくまとめておられるようでございますので、参考にしていただければありがたいと思ひます。簡単なのですけれども、以上で終わらせていただきます。

倉島会長

ありがとうございました。ただいまの件につきまして何かご質問がございましたら。

副区長兼地域課長

私のほうから関連してご報告させていただきたいのですが、今、渡邊委員から区自治協議会会長会議でのお話しがございました。区の自治協議会のあり方検討委員会、これは川島勝委員が北区から出ておりますが、これと、今程の自治協議会会長会議で出されましたご意見を踏まえまして、本庁の担当課で方向性のある程度まとめたものを、次回の 11 月の自治協議会のこの場でご報告して皆さまのご意見をたまわりたいということでございますので、ご承知おき願ひます。

倉島会長

ありがとうございました。あとほかに何かご質問がございましたら。

ないようですので次に移ります。その他の 2 番目ですが、北区自治協議会委員研修会について、連絡をお願いいたします。

副区長兼地域課長

来たる 11 月 9 日木曜日になりますが、北区の自治協議会の委員研修会、これはラム

サール条約の登録湿地であります西区の佐潟の視察でございます。今現在の申込みが、委員の方から14名の方から出席のご連絡をいただいております。まだ出欠のご連絡がない方がいらっしゃいましたら、のちほど事務局までご連絡をよろしくお願いいたします。

倉島会長

ただいまの件につきまして何かご質問あるいは聞きたいことがございましたら、ございませんか。

では次に移ります。次に図書館の新しい団体貸出制度について、報告をお願いいたします。

豊栄図書館長

資料をご覧くださいと思います。

これまでも新潟市の図書館では学校や保育園、幼稚園のほか、社会教育団体や福祉施設などに団体貸出というものを行っておりました。今回、それに加えて、先日新潟日報にも報道されましたが、この10月から対象をコミュニティ協議会、地域の茶の間など、地域の団体や民間の店舗など、法人や事業所、任意団体にも団体貸出を拡大いたしました。これによって、様々な地域団体や民間団体、グループからもご利用いただき、読書を通じて活動が広がったり、いろいろな交流のきっかけに役立てていただきたいと思います。

資料の1ページをご覧ください。内容について、本当に簡単に説明させていただきます。1団体について1枚の貸出カード、図書館カードです、これを発行します。そして1団体最大100冊まで1か月間借りることができます。ただ、100冊というのは結構ボリュームがありますので、20冊から50冊程度が扱いやすいかと思っております。

その下に、メニューということで、お客様セレクトと図書館セレクトというものがあります。お客様セレクトは、図書館に来ていただいて図書館の本棚から選んだ本をまとめて借りていただくものです。図書館セレクトは、図書館側が選書したものを借りていただく方法です。ご希望の内容に沿って司書が選ぶオーダーメイド型と、あらかじめテーマごとにセットしたテーマ別セットがございます。テーマ別セットは、ふるさと、小説、バラエティー、赤ちゃん、幼児、小学生、中学生、シニアの8つでございます。どのような本を選んだらいいかわからないという団体には便利かと思います。図書館セレクトは、ご希望によりゆうパックで配送することもできます。ただし、配送費用は団体

のご負担をお願いしたいということでございます。

資料には書いていないのですけれども、団体で借りていただいた本を地域の方個人に貸すという方法についても、借り受けた団体、例えばコミュニティ協議会がその地域の個人に貸すという方法も可能といたしますけれども、ただ、図書館に返すときにはきちんとそろえて返していただきたいということでございます。責任を持って同じ状態で返していただきたいということでございます。

1枚めくっていただいて、2ページ目ですけれども、これは団体貸出の活用例です。西区のほうで一生懸命やっております、事例1は坂井輪小学校・小新中学校区まちづくり協議会でご利用していただいております。事例2は民間で活用いただいている例でございます。

3ページについては、先ほど説明いたしましたメニュー内容を図にしたものでございます。

4ページをご覧ください。図書館であらかじめ用意しているテーマ別セットの内容でございます。

団体登録を希望される団体の方は、豊栄図書館、松浜図書館にお申込みください。ご不明の点は、豊栄図書館にお尋ねいただければと思います。

配付させていただいたチラシをご覧くださいと思います。このほど、こういう分厚い本が発行されました。『河童のユウタの冒険』という本でございます。これは、河童と天狗とキツネが信濃川の源流までさかのぼるという内容なのですけれども、このチラシの上半分をご覧ください。これは本の挿絵なのですけれども、ここにいらっしゃる方なら、すぐ、これは福島潟だと見覚えがあるかと思えますけれども、潟の岸から、潟と五頭山を眺めた絵、これが本の中の挿絵になっております。この冒険に出る河童が住んでいたのが福島潟という設定になります。福島潟という言葉は出てきませんけれども、福島潟でございます。そして新井郷川をさかのぼって信濃川に出ていく、源流まで行くという内容です。

ビュー福島潟建設の20周年にあたりますので、その物語が始まる、この本の物語が始まるビュー福島潟、福島潟を会場にして講演会を企画いたしました。この作家の斎藤惇夫さんは、実際に当然福島潟に来て取材をして構想をまとめております。講演会では、その時の話にもおよぶかと思えます。私たち地元の間人が気づかないような福島潟の魅力なども再発見できると思えますので、ぜひご来館いただきたいと思います。31日までは新潟市役所コールセンターで受付、その後は図書館で受付しております。

倉島会長

どうもありがとうございました。今の件につきましてご質問がございましたら。ないようですね。

それでは次に移ります。地域ミーティング in 北区の開催について、連絡をお願いいたします。

副区長兼地域課長

先ほども少し触れさせていただきましたが、冒頭に報告させていただきました地域カルテ、これを基に、市長が地域の皆さんと、人口動向を踏まえた地域と共に取り組むまちづくり、これをテーマに意見交換を行う地域ミーティングを開催するということでございます。開催の日時は12月17日曜日1時から、場所は新潟医療福祉大学になります。ご案内の文書につきましては次回の自治協議会の場でお配りさせていただきますので、自治協議会の皆さまからも多数のご参加をお願いしたいと思います。

5 閉会

倉島会長

ありがとうございました。何かご質問がございましたら。

ないようですので、今日は非常にたくさんの報告事項がありました。だいぶ時間も遅れておりますが、予定された議題は全部終わりました。そういうことで、事務局に進行をお返ししたいと思います。